様式3

学校番号 80

# 令和　8　年度　学校評価書　（ 計画段階 ）

福岡県立　朝倉　高等学校　（定時制）

| | | |
|---|---|---|
| スクール・ミッション<br>（本校の存在意義や社会的役割<br>目指すべき学校像） | 「積極的にチャレンジし、自らの将来を切り拓く人材を育成する夜間定時制高校」<br>保護者や地域と連携しながら、生徒一人一人の個性に沿った教育活動を展開し、地域から信頼される人材を育成します。 | |
| スクール・ポリシー<br>（三つの方針） | グラデュエーション・ポリシー<br>（育成を目指す資質・能力に<br>関する方針） | ・社会的自立の基礎的な学力、体力、コミュニケーション力、豊かな心の育成<br>・自他の理解を深め、互いの個性と人権を尊重しあう態度の育成<br>・協働の喜びや達成感の醸成を行い、自己肯定感を高め、地域に信頼され、地域を支える人材の育成 |
| | カリキュラム・ポリシー<br>（教育課程の編成及び実施に<br>関する方針） | ・中学校段階の学び直しを取り入れ、丁寧な指導を実施<br>・教員の指導は生徒の安全に守る最低限とし、生徒が主体的に自分で考え、行動できるように教育活動全体を通じて教員がサポート<br>・定期的な進路調査や進路ガイダンスを実施し、資格（コンピューター関連）取得を目指したカリキュラムを設定<br>・3年間でも卒業できるようにカリキュラムを設定し、個に応じた学びを支援 |
| | アドミッション・ポリシー<br>（入学者の受け入れに<br>関する方針） | ・自らの可能性を信じ、努力し続ける強い意志を持ち、目標実現に向けて積極的に挑戦しようとする人<br>・物事の本質を見極め、自ら主体的に判断し選択する力を身に付け、決まりを守って正しい行動ができる人 |

## 学校運営計画（4月）

| 学校運営方針 | 校訓「聡明・自立・敬愛」を拠り所に、社会的自立の基盤となる学力、体力、豊かな心を培うとともに、社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する人材を育成する。 | | 評価<br>（総合） |
|---|---|---|---|
| 昨年度の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | |
| 教育活動全般において全教員で情報を共有し、学校運営を円滑に進め、生徒へのきめ細やかな指導ができた。生徒の出席率は88.4%、授業評価アンケートで「わかった、できたと感じる」生徒が85.1%であった。<br>昨年度の課題としては、以下の点が挙げられる。<br>1　生徒の特性に応じたICT機器の活用等により授業展開を工夫する。<br>2　学校や地域での多様な体験を通して生徒の自己指導能力を伸長する。<br>3　4年間を見通した系統的な進路指導計画を策定し、生徒のキャリア意識を段階的に育成する。<br>4　本校の教育活動の理解を深める保護者・地域への積極的な広報活動を行う。 | ICT機器・一人一台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり | ・「個別最適な学び」を推進するため、生徒一人一人の多様な学習ニーズを的確に把握し、個に応じた指導を行う。また、遠隔授業や通信教育を導入し、学習意欲はありながらも登校できない生徒（病気療養・不登校等）に対する修学支援と学習機会の確保を行う。<br>・一斉授業だけではなく、生徒の個性や学力、人間関係を考慮したペアワークやグループワークを導入し、適切に設定した課題の解決に向け、全ての生徒が主体的に授業に参加できる「協働的な学び」を実現する。 | |
| | 自信と志を育成するキャリア教育の推進 | ・ハローワーク（公共職業安定所）と連携したキャリアガイダンスや大学・専門学校と連携した進学ガイダンス（上級学校訪問）、地域の官公庁や企業等と連携したインターンシップ（就業体験活動）を実施することにより、望ましい勤労観・職業観を育成する。<br>・アルバイトを積極的に勧め、職場と連携しながら学業との両立を支援することで、社会人としてのルールやマナーを身に付けさせるとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。 | |
| | 生徒の体験活動を重視し、「ほめて、伸ばす」指導により、能力を最大限引き出す生徒指導体制の充実 | ・生徒会を中心に生徒に主体的に学校行事を運営させることを通じて、多様な他者と協働しながら自立的に社会形成に参画しようとする資質や態度を育む。<br>・文化鑑賞会や校外体験型研修、修学旅行等の学校行事を通じて、校外での多様な実体験を積ませることで、社会を逞しく生き抜くのに必要な基礎的能力を育む。 | |
| | 「チーム朝高定時」としての指導体制の強化 | ・小中学校での特別支援教育や合理的配慮の状況を適切に引継ぎ、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、生徒個々の特性に配慮した適切な指導を行う。<br>・充実した職員研修を行うことで、教職員の教科指導力や教育相談力、生徒指導力を向上させる。 | |
| | 社会に開かれた教育課程の実現を目指した広報活動の充実と外部機関との連携による情報収集 | ・学校案内、学校通信、学校ホームページにより、学校内外へ生徒の活躍を発信する。<br>・定期的な親の会、中学校等訪問を通じ、保護者や中学校等と連携・協働しながら教育課程の実現を図る。 | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 生徒、保護者対象のアンケート<br>（外部アンケート等）の項目等 | 生徒、保護者対象のアンケート<br>（外部アンケート等）の結果等 |
|---|---|---|---|---|
| 教務部 | 全員の進級、卒業を目指す。 | 年間平均出席率90%以上を目指し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 | 出席率<br>授業評価アンケート<br>「前向きな気持ちで授業に参加している」<br>「わかった・できたと感じる」<br>補講対象者への実施後アンケート | |
| | | 生徒の学びに寄り添いながら「わかった、できた」と実感できる授業を実施し、学びに向かう態度を育み、基礎学力の定着を図る。 | | |
| | | 学期ごとに補講を実施し、基礎学力の確保及び進級・卒業を目指す態度を育てる。 | | |
| | 全ての生徒にとって学びがいのある「個別最適な学び」を推進する。 | 新入生基礎学力観察週間を年度の始めに実施し、個々の学力を把握・共有し、生徒の実態に応じた指導に努める。 | 生徒情報交換会の実施回数<br>遠隔授業・通信教育の導入件数 | |
| | | 特別支援教育の視点に立ち、うまくいった指導方法とうまくいかなかった指導方法を情報交換会で共有し、様々な生徒の特性に対応した授業を実施する。 | | |
| | | 不登校生徒や病気療養中の生徒に対する修学支援と学習機会の確保をするために、定期的に遠隔授業・通信教育検討委員会を開き、遠隔授業や通信教育を迅速に実施する。 | | |
| | 全ての生徒が主体的に参加できる「協働的な学び」を実現する。 | 生徒の学力や人間関係を考慮し、ペアワーク・グループワークのメンバーを設定する。 | 授業評価アンケート<br>「前向きな気持ちで授業に参加している」 | |
| | | ICT機器・一人一台端末を効果的に活用し、生徒が互いに助け合いながら課題の解決に向けた活動ができるように適切な課題の設定と支援をする。 | | |
| | | ペアワーク・グループワークを振り返る場面を設定し、多様な他者と協働する良さや価値を気づかせる。 | | |
| | 指導と評価の一体化を図る。 | 年間学習指導計画を利用し、PDCAサイクルを回したり、授業評価アンケートの結果を参考にしたりすることで指導改善を絶えず行う。 | 授業評価アンケート<br>「授業の受け方を工夫したり、定期考査へ向けての学習方法を改善することができた」<br>「授業で努力したことを認めてくれる」 | |
| | | 学習評価の方針を事前に生徒と共有するとともに、フィードバックする際にも改めて生徒と共有することで、生徒の学習改善を図る。 | | |
| | | 観点別学習状況の評価や評定では示しきれない生徒一人一人のよい点や可能性、進捗の状況などを「個人内評価」として実施し、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう日々の教育活動の中で生徒に伝える。 | | |
| 生徒指導部 | 集団の一員としての自覚を育てるための生徒会活動の活性化 | 生徒会役員会の定例化。 | 行事後アンケート | |
| | | 行事等の生徒会への適切な役割分担と職員による評価・声かけ。 | | |
| | | アンケート調査による生徒の意見を反映した行事計画。 | | |
| | 積極的な生徒との関係づくりと生徒指導の早めの取り組み | 日頃からの生徒への積極的な声かけ。 | 学校生活アンケート | |
| | | 家庭訪問・電話連絡等による保護者との連携。 | | |
| | | 生徒情報交換会の一層の充実。 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 生徒指導部 | 秩序ある学校づくりと遵法精神の育成や社会でのマナーの体得 | 授業規律の徹底（授業は最大の生徒指導の場）。 | 交通安全教室事後アンケート | |
| | | 交通安全教育・防災意識の向上教育等、安全指導の充実。 | | |
| | | 通学届の徹底・自転車保険の加入促進。 | | |
| | いじめを引き起こさない集団づくりと環境整備、ネットトラブルの未然防止 | 毎月のいじめに関するアンケートの実施。 | いじめアンケート<br>研修会後職員アンケート | |
| | | いじめに関する職員の研修会実施。 | | |
| | | いじめやネットマナーに関する生徒への学習の実施。 | | |
| 生徒指導部<br>保健課 | 生徒が心身ともに健康で安全な楽しい生活を自ら実践できるように支援する。 | 情報交換会で生徒の心身の健康面についての情報を提供し、全職員で共通理解を図る。 | 保健アンケート<br>学校生活アンケート | |
| | | 食中毒や感染症の予防・対策・事後措置を実践する。 | | |
| | | 食育指導を通して給食への関心を高めさせ、給食を通して「食べる」ことの幸せを体感させ、空腹の解消を図る。 | | |
| | 生徒保健委員活動を通して、保健委員一人一人が自覚と責任を持ち、生徒の主体的な活動となるようにする。 | 保健会筑後地区定時制部会では情報交換および有益な交流、自己啓発に努める。 | 研修会参加についてのアンケート(研修内容・時間・次回の希望する研修について) | |
| | | 将来にわたり記憶に残るような体験的な研修の実施で卒業後の生活の充実につなげる。 | | |
| | | 生徒の実態に応じた講演会を実施する。 | | |
| | 特別支援教育の推進を図る。 | 引継ぎシートを提出した生徒に関して、丁寧に適切な対応を行い、支援計画・指導計画を作成する。 | 学校生活アンケート | |
| | | 当該生徒の学校生活の充実度の向上と「困り感」の早期発見に努める。 | | |
| | | 特別支援教育の研修会の内容を職員に還元し、合理的配慮・インクルーシブ教育において生徒個々に必要な特別支援教育の支援・指導の検討と充実を図る。 | | |
| 進路指導部 | ハローワークと連携しながら、生徒の就学と就業を積極的に支援する。 | ハローワークと連携しながら就労を支援する。 | 職場訪問等を通し就労状況を確認 | |
| | | 職場訪問を行い、生徒就業状況を把握する。 | | |
| | | 定期的に就労状況を把握し、就労促進に役立てる。 | | |
| | キャリア教育を推進する。 | 外部講師や上級学校の担当者を招き、進路ガイダンスを年2回実施し、幅広く進路情報を提供する。 | 進路ガイダンスアンケート<br>進路希望調査 | |
| | | 定期的に進路希望調査を行い、生徒一人一人の進路実現に向けた組織的な指導に役立てる。 | | |
| | | 生徒一人一人の希望や能力に応じた資格・検定試験や模擬試験へのチャレンジを促す。 | | |
| | 本校の教育活動の成果について、地域、家庭に積極的な広報活動を行う。 | ハローワークと連携し、個々に最適な就職を支援する。 | 進路希望調査 | |
| | | 進学希望者に対し、個別に応じた支援を行う。 | | |
| | | 進学希望者へ向けて各種奨学金等の案内を行う。 | | |
| 進路指導部<br>企画研修課 | 職員研修を推進する。 | 全職員は指導目標をもって「授業公開週間」に臨み、研究協議では指導目標の達成状況について協議し、授業改善に生かす。 | 研修会後職員アンケート | |
| | | 情報交換会や文書の回覧において、校外での研修で学んだことを報告し、全職員で共有する。 | | |
| | | 人権教育特設授業を充実させるため、校内研修を実施する。 | | |
| | 生徒の健全な育成のために、地域、家庭との連携を図る。 | 出身中学校や関係機関・転編入生の前籍高校を1学期に訪問し、情報交換を行う。 | 校外体験型学習の事後アンケート<br>いじめ等早期発見のための家庭用チェックリスト | |
| | | 校外体験型の学習を実施し、地域文化への理解を深める。 | | |
| | | 保護者会や親の会を活用し、保護者と連携する。 | | |
| | 本校の教育活動の成果について、地域、家庭に積極的な広報活動を行う。 | 学校パンフレット、HPや朝倉通信、で学校内外へ生徒の活躍を発信する。 | 朝倉通信発行回数<br>体験入学後アンケート | |
| | | 中学校訪問を利用して広報活動を行う。 | | |
| | | 中学生の体験入学を随時受け入れる。 | | |
| 人権教育 | 日常の教育活動において人権教育を推進する。 | 人権教育特設授業の内容充実を図る。 | 人権教育特設授業各学年2回実施<br>人権教育特設授業後職員アンケート | |
| | | 人権が尊重される環境づくりを進める。 | | |
| | | 生徒理解を基本に、一人一人が大切にされていることを実感させる。 | | |
| | 人権教育の研修に積極的に取り組む。 | 様々な人権課題に関する校内研修を実施する。 | 校内研修会後職員アンケート<br>校外研修参加回数 | |
| | | 校外の人権教育に関する研修に積極的に参加する。 | | |
| | | 日常的に、指導の改善・充実に関する研修を行う。 | | |